

ヨーロッパにおける難民受入れ危機 最新レポート(2015年10月29日)

欧州理事会

2015年10月25日、ブリュッセルにおいて、ユンカー欧州理事会議長の招集により、西バルカンルート経由移民に関するミニサミットが開催された。アルバニア、オーストリア、ブルガリア、クロアチア、マケドニア旧ユーゴスラビア、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、ルーマニア、セルビアおよびスロベニアの元首ないし政府首脳が「国境管理協力の強化、西バルカンルートにおける難民への人道的支援施策を強化する」ための17の行動計画に合意した。

行動計画の主な内容：

- ・ 加盟国間で移民の移動に関する日常的な情報交換を強化するべく、連絡窓口を創設する。
- ・ 全ての到着移民に対し一時的な保護施設を提供するとともに「国際的保護を必ずしも必要としない移民に即時かつ効果的な帰国をさせるよう計画する」（例：再入国に関するアフガニスタン、バングラデシュおよびパキスタンとの協力強化）ための施策を講ずる。同じく「難民や移民の権利および義務に関する情報発信を向上する」こととしたが、これは、移住を思いとどまらせ、指紋採取や現在地における保護への拒否がもたらす不利な結果を警告することを目的とする。
- ・ 「一時的な保護施設、保養、食事、健康、水および衛生設備を、それらを必要とするすべての人々に提供することができるよう、加盟国が整備を拡大することを約束する。以上の達成ができない場合、加盟国は欧州理事会に対し必要事項を明確に示すとともに、必要とあれば、欧州民間人保護プログラムを始動させる」。クロアチアは物理的支援（冬用テント、ベッド、毛布、マットレスおよび衛生設備の提供）実施のため、既にこのシステムの実施を要請した。
- ・ 「共同の移民動向管理」の実施により、生体認証（指紋）を最大限に活用する。

アルバニア

現時点では、今後発生しうる移民流入に向け、経路や受入れのための設備整備は予定されていない。現在、ティラナにある2施設が難民の受入れ施設となっている：

- ・ Babruは、アルバニア国内において保護を希望する人々に開かれているセンターで、150人を収容できる。UNHCRによると、現在50名が同センターに滞在している。
- ・ Karreacは送還される移民の勾留施設である。100名を収容することができるセンターには、現在誰もいない。

政府とUNHCRは、難民の大量流入に備え、協働し緊急整備の準備にかかっている。

ベルギー

この数ヶ月、ベルギー連邦政府は難民申請の受理業務が滞っており、その結果、水、食糧、シェルターが圧倒的に不測している。世界の医療団を含む市民団体によるアドボカシー運動とメディアからの圧力が功を奏し、政府は夜間保護施設を提供するための取り組みを強化せざるを得なくなったが、冬の到来が近い現在、特にその必要に迫られている。10月上旬以来テント式キャンプは一掃されたが、人々はただ夜間シェルターに入所するだけのために（その施設で医療を受けることができるかどうかが明確でなくとも）、保護申請の再開を待ち望んでいる。

そのため、世界の医療団ベルギーは空所となった事務所（1000m²）を借り上げ、そこで、テント式キャンプで活動を行っていた市民団体（例：衣服・靴の提供を行ったOxfam、食料、文化的・教育的

活動、無料法律相談、礼拝所を提供したcitizens' collective) とともに、日中サービスの提供を引き続き行っている。このデイ・センターは、保護申請を行うエリアから徒歩圏内にあり、午前10時から午後9時まで、移民を含めた全ての人々が利用できる。

世界の医療団は、毎日14時から16時の間、診察を行っている（医師1名、看護師2名、精神科医師および通訳者1名ずつが1日に30～40名の診察を実施）。有効な滞在許可を持たない者や保護希望者としての登録を終えていない者など患者は多岐にわたり、また25%の人々は既にシェルターを割り当てられているが、世界の医療団の医療サービスについて知っている、または安心して受診できるという理由で、来訪する人もいる。

チェコ共和国

2015年10月14日、オンブズマン（Public Defender of Rights）はベラ・ジェゾワの勾留センターについて記者会見を行った¹。外国人が自身の状況について十分な情報提供を受けることができず、移送の際に手錠をかけられることが慣例化しており、常に外の世界との連絡や法的支援へのアクセスから遮断されていると報告された。

クロアチア

クロアチア・ハンガリー国境において、警察による数千の移民への対応強化のため、軍も警戒態勢に入っている。スロベニア議会は10月21日（水）、軍が国境警察を援助できるよう権限を強化する法案を可決した。法案議決前、ミロ・ツェラル首相は報道陣に対し、スロベニアは欧州連合に警察力強化と経済的支援を求めるつもりであると話した。

フランス

政府は、カレー市ジュール・フェリーおよび近郊で生活する数千の人々に対し、保護施設と医療サービスへのアクセス向上の方針に同意したが、特別な措置や実施のための見通しはいまだ発表されていない。この人道的危機を前に、世界の医療団は2015年10月26日、NGO団体Secours Catholique（カリタス）とともに、緊急訴訟（急速審理、レフェレ）を起こした。この訴訟では、裁判官は48時間以内に公判を行う。この判決で裁判所が基本的自由（人間の尊厳への権利、尊重、非人間的・品位を傷つける取扱いを受けない権利、保護を求める権利）が侵害されていると判断すれば、国家に行動を強制することができる。

冬の到来により、キャンプに到着した人々の間で不安やストレス、見捨てられたような気持ちが生まれており、緊張状態が続いている。

カレー市の移民数は、ここ数か月で3,000人から6,500人へと急増し、世界の医療団フランスはカレー市の緊急事態に対処するため人員の増強を決定した。世界の医療団の現地チームによれば、複雑なトラウマ（母国や移動する上で負った身体的・精神的苦痛）を抱えた患者が、次々に診察に訪れている。世界の医療団は10月19日から23日にかけて、338回の診察と、126名への看護ケア、51回のリハビリケアを行った。同じ週に、現在主流となっているPASSという医療サービス（健康保険を持たない人々の医療アクセスを可能にする特別な制度）へ、また18名を緊急治療へ紹介した。PASSは早い時間に終了してしまうので、患者を紹介するにも苦労している。

ドイツ

10月、ドイツ側のジンバッハとオーストリア側のブラウナウで、大量の難民流入に対する警察の規制が始まった。ジンバッハの難民キャンプは、スペースに空きが生じた場合のみ受け入れている。2つの国を隔てる橋を前にして、多くの難民が待機している。彼らの多くは、入所を待つ行列の中で順番を確保しようと屋外で夜を明かしている。10月中旬、1,000人がフライラッシング（ドイツ）と

ザルツブルグ（オーストリア）間の国境に到着した。ここでは多くのボランティア、NGO、ザルツブルグ当局の役人、オーストリア国防軍、その他の組織が活動している。

ミュンヘンの中央バス発着場では、世界の医療団が移民向けに基礎医療や生活相談サービスの提供を続けている（彼らの多くはドイツ北部の都市ハンブルグやスカンディナヴィア諸国を目指している）。世界の医療団は月曜～水曜の朝7時から夜10時の間の3～5時間に、約50人の相談を受けている。また、食料品、毛布、衛生用具、バス用チャイルドシート、その他のサポート（翻訳など）を提供しているボランティアグループとも、協働している。

ハンブルグではヴェステント(Westend)の移民専用クリニックを利用する事が出来る。このクリニックは世界の医療団ドイツと現地組織「希望」との協働プロジェクトで、多くのEU移民が住むヴィルヘルムバーグに位置し、内科、婦人科、小児科の医療検診を行っている。現在、申請ができない移民たちは中央駅構内や近くのホテルで寝泊まり出来るが、スペースには限りがある。

ギリシャ

現在、オランダ、ベルギー、スペイン、フランス、それにイギリスから世界の医療団のボランティアが支援活動に参加している。

現状：

- 2015年10月19日の1週間にレスボス島に上陸した難民の数は22,192人、1週間後の10月26日は26,928人。医療及び精神科診療の件数は19日の週に1,042人、26日の週に1,313人。島内の衛生状態は深刻で、モリアとカラテペでは食料も不足している。
- ヒオス島では、10月中旬には1週間に3,000人を超える移民が到着、医療並びに精神科診療は534人、659人に及んだ。

ギリシャ、レスボス島
モリアの難民登録センター
©Merel Graeve



Lesvos, GREECE . October 22, 2015
The situation in the refugee identification center (Hot Post) in Moria.
Photo : Merel Graeve

カヴァラ（ギリシャ北部）での支援活動

10月、レスボス島からの移民船がカヴァラに到着した日から2日間で、世界の医療団ギリシャのボランティアチームが島の港で生活する難民の子供たちに800個の小型バッグを配った。中味は、全て世界の医療団や現地組織が寄付として集めた飲料水、ジュース、ミルク、クロワッサン、ビスケット、パン、ドライフルーツ、エネルギーバーなど。このほか、新鮮な果物、毛布、バックパック、レインコート等も大人、子どもたちにそれぞれ配布された。また、アラビア語を話す内科医1名と皮膚科専門医1名が港の難民に対して、初期的な治療を行った。

マケドニアとの国境に位置するイドメニでは、大規模な難民の流入（1日に5,000～6,000人から7,000～10,000人へ増加）に直面している。患者の主な症状として、ウィルス性疾患、外傷、皮膚疾患及び数例の胃腸疾患などが挙げられる。16歳以下の未成年の患者が目立つ。

10月下旬、到着した難民の大多数はアフガニスタンからの移民で、その前はシリアからだった。

また、アテネでは他の島々からアテネに入る難民の一時収容所となっているガラチの屋内競技場において、世界の医療団が初期のヘルスケア及び薬学ケアを実施した。



© 世界の医療団ギリシャ ガラチのチーム、

ハンガリー

2015年10月17日、ハンガリーの当局はセルビアとクロアチアに接する国境を封鎖した。ハンガリー政府は、必要ならば将来ルーマニアとの国境も封鎖するとの声明を既に出している。

クロアチア／ハンガリー間の国境封鎖を前に、メネデク（ハンガリー難民支援協会）が約6,000人の難民の支援に当たった。2カ所の国境検問所（Beremend とLetenji）は、合法的な身分証を所持する難民だけに通過を認めている。

オランダ

– テルアーペルの収容センターは現在、難民申請を待つ500人が収容されている。Heumensoordのテント村には現在2,200人が収容されているが、まもなく満員になることが予想される。

スロベニア

ハンガリー政府による国境封鎖を受けて、数千人の移民がクロアチアからスロベニアに入国している。クロアチアとスロベニアの両国は、難民をスロベニア経由でオーストリアに移動させることに同意した。スロベニアが受け入れる難民の数は1日2,500人までであるにも関わらず、現在1万人もの難民が毎日流入している（先週だけで7万人以上）。難民たちはここスロベニアで、食糧やシェルターが不足するなか長時間待ち国境を通過している。

難民はクロアチアのトバルニクからチャコヴェツへ輸送され、そこからスロベニアの3か所の国境検問所へ輸送される。

セルビア

最初の医療救援物資はディミトロフグラード病院に支給した。防寒シェルター、衣類、衛生用品、基礎医療サービス、これらどれもがまだまだ不足している。

スペイン

1月から9月の間にシリアからの難民6,000人が、セウタとメリリヤの国境地域を通過して、スペインに入国した。難民の多くは、スペインに留まらずドイツに行く事を希望している。10月26日、70人のシリア難民がメリリヤとの国境で監視活動が続けるモロッコ警察を振り切り、スペイン側の検問所で難民申請を行ったため、スペイン側で数分間、モロッコ側で1時間の国境封鎖が実施された。多くのシリア難民が、メリリヤとモロッコの国境の主要な通過地点ベニ・エンザールで待たされた。シリアからの難民申請者であれば、スペイン警察は通過を阻止できないため、難民たちは検問所にある難民事務所で難民としての書類手続きを行うことが可能である。メリリヤのCETI（移民のための一時収容センター）は、これまで1,680人の難民を受け入れてきた。これに70人を加えると合計1,750人、その内1,300人がシリア難民である。

1年前、CETI収容者数の半数はサハラ以南アフリカからの移民が占めていたが今日、圧倒的に多いのがシリアからの移民である。

シリアから3,957キロも離れたモロッコ、それでもシリア難民はモロッコに向けてトルコ、レバノン、ヨルダンを出発しようと試みる。出発できたシリア難民はバスを利用してエジプトに入り、ビザ無しで入国が可能なアルジェに向けてアフリカ大陸を横断する。しかしアルジェリア政府はバシャー・アル・アサド大統領を支持しているので彼らの入国を歓迎していない。

スウェーデン

過去数か月の間、入国する難民の数が増えるにつれて、スウェーデンでは難民や移民に対する差別や暴力という社会現象に直面している。政府は今やイラクを安全な国との見方に転換しつつあり、

その結果多くのイラク国民がスウェーデンでの難民申請を諦め、次の目的地フィンランドやノルウェーに向かっている。スウェーデンに入国する移民の数は、全体として次第に減少しつつある。難民資格を有する人々は、スウェーデン国内の主要な病院での診療が受けられるため、世界の医療団の活動は調停役やカウンセリング等、広範囲に及んでいる。

1日に約2千人の難民がスウェーデンに入国、登録を済ませた。9月以降、5万人人以上が難民申請の手続きを行い、付添の居ない未成年者28,000人が認定された。